（事後評価）

産学協働女性キャリア支援　東海大学モデル

（実施期間：平成 20～22 年度）

実施機関：東海大学（総括責任者：松前　達郎）

プロジェクトの概要

本計画では、女性研究者がこれまで個々に行ってきた努力を、全学的な取組として発展させ、次の５項目を柱に体系的なサポートを行う。

Ⅰ)「女性研究者および次世代人材の産学協働型のキャリアパス形成」研究支援制度およびメンタリングシステムを確立すると同時に、産業界との人材交流を促進することで、女性研究者のキャリアパス形成を支援する。

Ⅱ)「ライフイベントに対応したワーク・ライフ・バランスの総合支援」ライフイベント支援制度の確立により、出産・育児・介護等のライフイベントに対する支援体制を強化する。

Ⅲ)「ワーク・ライフ・バランスを考慮した勤務体制の見直し」在宅勤務制度やフレックス制度等の柔軟な勤務体制の導入、研究以外の業務負担軽減によりワーク・ライフ・バランスを推進する。

Ⅳ)「学内の意識改革と啓発活動」セミナー・講演会や、幹部および教職員向け研修会による、学内の意識改革と啓発活動を実施する。

Ⅴ)「学内外への情報発信活動」本計画の波及効果を意識し、各種メディアを使った学内外への情報発信活動を積極的に行う。

これらの取組は、湘南キャンパスをモデルとして実施した後、全学的支援体制（全１０キャンパス）を構築し、長期的・継続的に推進する。

（１）　評価項目

総合評価	目標達成度	システム改革の成果	取組	波及効果	実施体制	実施期間終了後における取組
A	b	a	a	a	a	b

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

（２）　評価コメント

10 キャンパスにワーク・ライフ・バランス推進担当者を配置し、湘南キャンパスで確立した女性研究者支援の取組を他の 9 キャンパスで展開しており、全国にキャンパスを有する大規模私立大学における取組としてそのモデル性が評価できる。

目標達成度：保育支援、勤務体制改革、意識改革、情報発信の取組は、概ね目標を達成している。しかし、本プロジェクトの特徴的な取組であった産学協働型キャリアパス形成の進捗は十分とは言えず、取組の成果も乏しい。

システム改革の成果：全国にキャンパスを有する大規模大学であるにもかかわらず、全学体制で女性研究者支援を推進するシステムを確立していることは評価できる。また、産業界で活躍する OG と連携し、産学協働のキャリアパス形成支援体制を構築しており、今後、その具体的な成果が

期待される。
取組：女性研究者に限らず男女教職員全ての働きやすさを支援するという方針により、全教職員の評価の高い取組を実施しており、その結果として、女性研究者支援を効率的に行うことが可能となっている。
波及効果：取組の 10 キャンパスにおける全学展開、産業界で活躍する OG との連携など、大規模私立大学への波及効果を期待する。
実施体制：10 キャンパスを有する大規模大学であるが、学長室に設置したワーク・ライフ・バランス推進室が中核となってプロジェクトを推進し、全キャンパスへ取組を展開する体制がよく機能しており評価できる。
実施期間終了後における取組：ワーク・ライフ・バランス推進室は、学長室から湘南キャンパス人事部へ移行させるが、その体制、機能などの継続性は担保されている。今後の取組の継続性・発展性を担保するため、資金計画等の見直し等が必要である。